

# エージェンシーへの社会文化的アプローチに向けて 災害レジリエンスから考える

—教育アセスメントにおける挑戦—

有本昌弘\*

エージェンシーへの社会文化的アプローチに向けその切り口と方法を見出すべく、Bibliometricsを活用した。具体的には集合的効力感と教師・生徒エージェンシーという3つの切り口から行った。分析の結果、エージェンシーは、①数多くの社会科学上の用語で固められていること、②気候変動、災害など様々なリスク、インフォーマル・ノンフォーマルな学びの一環にも着目していること、③教師については、能力というより空間上の拡がりをもつ影響力をもつものであること、④アセスメントと共調整・社会的共有調整学習をつなぐのに不可欠、かつ「関係」やレジリエンスの概念とも親和性があること、⑤学生が生成 AI Chatbot を取り入れる動きを含むことがわかった。展望として、日本の日常現象と出来事からリアリティを伴いつつ掬い上げ、アラインメントの挑戦に耐えうるフレームの準備が課題であるが、それは不可能なことではない。

キーワード：エージェンシー、AI チャットボット、自己・共調整学習、(災害)レジリエンス、集合的効力感

## 1. はじめに

本研究の目的は、エージェンシーという概念にアプローチすることである。コンピテンスは教育における中心的な重要概念であるが、その使用はしばしばパフォーマンスと混同され、最近の言説には問題が混在している (Pikkarainen 2014)。

1990年代半ばまでにそれまで注目されていた日本的経営の概念にとってかわり、集合的効力感という概念が注目され始めた。そこで、再度これまで盲点となっていた日本の「共助」の概念を、集合的効力感として再解釈し、それを人間のエージェンシーの基盤と考える。さらに「日本こそが、個人特性や非認知的スキルとしてレジリエンスを取り上げるべきだ」との意見を、米国カリキュラム・リデザインセンターの Charles Fadel は、表明している。ただし、日米間には文化的な差異が存在するため、本研究では、教師と生徒双方に焦点を当て、日本の文化を基軸とする。日本では、インフォーマル (例：学習活動というよりは、運動会もしくは課外活動、行事その他学級経営活動上のイ

---

\*教育学研究科 教授

メント)かつノンフォーマル(例:一日防災学校)な学びをしてきており、システムとして全人教育に当たってきている点は、海外からの目を通して、我々は意識することが出来つつある。一方で、自己調整学習、レジリエンス非認知的側面も注目され、日本国内の職員室で日常の話題となっているのは、子どもの主体性をどう評価するか、評点として返すか、という点である。その際、評価の重みづけや意味解釈が各人で異なり、自己調整とレジリエンスの二軸でプロットするものの、これらは非認知的で主観的な要素を含む。それゆえ、世界における社会文化的な(思考、感情、行動に影響を与える社会的、文化的影響)的位置づけとマッピングが重要という問題意識があった。これは水解すべき喫緊の課題となっている。

そこで、これまでのレビューを行うとともに、Wertsch et al. (1993)など、社会文化のアプローチが重要と考え、日本の社会文化に注目する。この研究では、OECD 2030に向けて、大きなフレームとして、仙台防災枠組の優先行動を活用し、特にデジタルツウィンという有用なツールに着目する。背景には、STEMやSTEAM、ゲノムへのELSIからの対応、災害への情報科学や認知科学からのアプローチ、気候変動、SDGsやSWGsに向けたウェルビーイングなどグローバルなアプローチがある。

エージェンシーを日本の社会文化的特徴である自然災害、特に共助を通じた集合的効力感を媒介項とし、レジリエンスを非認知的スキルの一つとして解明する<sup>注1)</sup>。

次に、アイルランド幼児期カリキュラムに特化した用語解説集 Assessment glossary と、論文から、簡単なレビューを行う。

- アセスメントとは、学習者としての乳幼児や幼児の豊かな肖像を描き、彼らの将来の学習を支援し、向上させるために、情報を収集し、記録し、考察し、利用する継続的なプロセスである。
- 共調整 乳幼児や幼児が自分たちの考え、感情、行動を理解し、それを表現できるように、サポートやモデルを提供する応答的な相互作用。
- 自己調整 乳幼児や幼児が、身体機能をコントロールし、感情を管理し、集中力や注意力を維持する能力。
- カリキュラム 乳幼児や幼児が経験する、屋内外の環境におけるフォーマル、インフォーマル、かつ計画的・非計画的なすべての体験。
- エマージェンシー・リテラシー(創発的読み書き能力) 乳幼児は、読み書きやコミュニケーションの基礎として、活字や言語に対する理解を深めていく。遊びや実体験を通して、子どもたちは活字を見たり、活字に触れたりすることで、活字の機能や慣習に対する認識を深め、自分が他者から理解されることを学ぶ。
- 創発的な計算能力 乳幼児や幼児は、身の回りにある算数の概念について理解を深めていきます。遊びや実体験を通して、子どもたちは形、大きさ、体積などの概念に触れ、その機能や目的について認識を深めていく。
- エージェンシー 幼児・児童は、自分の学習について、またその学習において、主体的に行動し、

選択する (act independently and make choices) ことができる。

○エージェンティックな乳幼児 乳幼児や幼児は、自分の学習に対して発言し、影響力を持つ (having voice and influence)。

○エージェンティックな教育者 子どもたちの学習の必要性に応じて、専門的かつ十分な情報に基づいた決定 (makes professional and informed decisions) を下す。

○公平性 すべての乳幼児や幼児に、参加し、自分の意見を聞き、尊重される機会を提供する。すべての乳幼児や幼児を同じように扱うという意味ではない。

○地球市民 地球市民は、より広い世界、そしてその中での自分の位置を認識し、理解している。赤ちゃん、幼児、そして幼い子どもたちは、一人ひとりが世界市民である。地域社会で積極的な役割を果たし、地球をより平和で持続可能で公正なものにするために他の人々と協力する。

○ラーニング・ストーリー (Learning stories) 教育者が主導する、物語的アプローチによる学習と発達の記録方法。ナラティブ・アプローチによる。

○世界観 異なる視点から世界を理解することである。世界観には、世界、自分自身、そして私たちの生活についての考えや態度が含まれ、世界とそれがどのように機能しているかについての一連の理論を持っていることが必要である。この世界観は、乳幼児が家庭や周囲の広い世界で経験したことから得られる。(以上 NCCA (2023))

○エージェンシーの6つの次元とは、自信、積極性、能力、勤勉性、野心、独立性 (Confidence, Aggression, Competence, Hardworking, Ambition, and Independence) であり、これらはエージェンティック・ドミナントとエージェンティック・コンピテンスに負荷される (Anyi Ma et al. 2017)。

○個人のエージェンシーに関する認識は、有能な機能を促進・維持する上で重要な役割を果たし、乳幼児期にその認識が芽生えることは、早期発達の達成にとって重要である (Ford and Thompson 1985)。

○忠誠心は重要だが時間軸が短く、外部機会は向上するが時間軸が長い場合、エージェンシー能力 (コンピテンシー) は低くなる (Wagner 2009)。

○社会的地位は主に自己主張と関係があり、コンピテンスとはやや関係があり、努力とはわずかな関係しかない (Louvet et al. 2019)。

○コンピテンシー特性 (例: スキルフル) は職務遂行能力と関連し、エージェンシー特性 (例: 野心家) は出世や高い金銭的価値と関連する (Mollaret and Delphine Miraucourt 2016)。

○コンピテンスを伴うエージェンシーは、独立した自己構成と主体的価値観に関係し、温かさや道徳性を伴う共同性 (communion) は、相互依存的自己構成と共同的価値観に関係する (Abele et al. 2016)。

この背景には、VUCA という時代における知識の変化がある。世界各地で、自然災害によって地域社会が直面するリスクが増大していることが認識されるようになり、備えのための対策を奨励することによって、有益なことも多いが時には危険な自然プロセスと共存するための人々の能力を促

エージェンシーへの社会文化的アプローチに向けて災害レジリエンスから考える

進めることに関心が集まっている。……ニュージーランド、インドネシア、日本のコミュニティのデータを用いて、このモデルの異文化間における妥当性について議論する (Paton et al. 2010)。津波など自然災害、レジリエンス、持続可能性、リスクマネジメント、適応、支援に加えて、文化や、エンパワーメント、認識、信頼という包括的アプローチが見て取れる。津波など危険への備えの有効性に関する人々の信念が、社会的背景要因(コミュニティへの参加、集合的効力感、エンパワーメント、信頼)と相互作用して、危険への備えのレベルに影響を及ぼすとするモデルの検証 (Paton et al. 2009) など、備えの文化やコミュニティのモデルが提示されている。

そこで、以下では、エージェンシーを、日本の文化に共鳴するであろう集合的効力感、そして、教師、生徒から順にみていくこととする。

## 2 集合的効力感をベースにエージェンシーを掘り下げる

論文の bibliometric mapping とクラスター 10 について、クラスターごとの関連キーワードを下記に示す (2024年9月30日での当該タイトルをもつ Web of Science から検索された論文133件からクラスターを抽出)。クラスターの番号は、特に順序を示さない。

- 1: 物質使用と環境要因 (集合的効力感)
- 2: 活動, アイデンティティ, 社会正義 (エージェンシー)
- 3: 都市空間における適応と身体活動 (コミュニティレジリエンス, 災害, 自然ハザード, 津波)
- 4: 市民参加とデジタルの影響力 (コミュニティまとめ)
- 5: 教師の信念と専門的エージェンシー (インクルージョン)
- 6: コミュニティの行動と社会運動 (リスク)
- 7: デザインプロセスにおけるコミットメントと創造性 (創発的性質)
- 8: 認知理論と集合的効力感 (メンタルヘルス)
- 9: 若者の能力と青年期の発達 (気候変動)
- 10: キャリアに対する姿勢と人間としてのエージェンシー (社会認知理論)

気候変動は、私たちが直面する最も差し迫った問題のひとつであり「金曜日は未来のために (Friday for future)」という抗議運動の波は、その若さと世界的な広がりという点でユニークである。しかし、若い活動家たちが自分たちの関与をどのように経験しているか、また、気候変動活動の経験が彼らの個人的な成長や心理的ウェルビーイングにどのように結びついているかについては、まだ十分に知られていない。気候変動という難問の差し迫った性質とは対照的に、気候変動活動は、若い参加者の多くにとって、ほとんどが力づけられる経験であることがしばしばある (Budziszewska and Glód 2021)。

持続可能な未来をどのように確保するかは、現在、社会全体の重要な課題のひとつである。バンデューラのヒューマン・エージェンシー理論は、行動や変化を起こす際の個人的、代理的、集団的エージェンシーの役割を認識することで、この問いに重要な示唆を与えている。サステナビリティ・

エージェンシーを概念化し、その支援に関連する心理学的特徴とコンピテンシーについて議論されている。エージェンシーは様々な形や文脈で現れる。個人の生活、コミュニティ、地域、国家、グローバルな場面における無数の行動が持続可能性に貢献しうる。このような変革に関わる様々な機会は、フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな学習環境における教育において、それを成功させるためのターゲットと指標を広げ、明確化することによって、よりよく認識することができる。その結果、その教育と関連するサステナビリティへの参加は、多様な背景を持つアクターにとって、より包括的で有意義なものとなる (Im Koskela and Paloniemi 2023)。



Figure 1. Sustainability agency consists of individual, collective and proxy agency (Bandura 2006), which can be supported by creating structures for formal, informal and non-formal learning.

図1 学習とサステナビリティのためのエージェンシー (Koskela et al 2023)

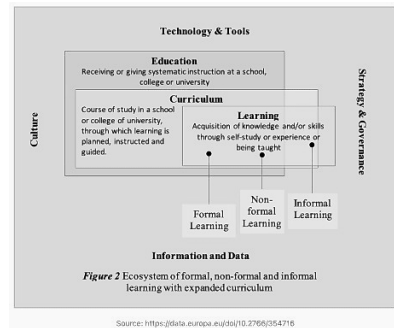


Figure 2 Ecosystem of formal, non-formal and informal learning with expanded curriculum

Source: <https://data.europa.eu/doi/10.2766/354716>

図2 ノンフォーマル、インフォーマルな学びと拡張されたカリキュラム (Blessinger et al 2023; European Commission 2020 より重引)

### 8: 認知理論と集合的効力感 (メンタルヘルス)

認知理論, 集合的効力感, 効力感, 実施, リーダーシップ, レベル, メンタルヘルス, 組織, 成果, 政策, 心理学, 質, 回復, ソーシャルワーク, チーム

効力感信念は人間の行動を決定する重要な要素である。社会的認知理論の文脈では、集合的効力感の知覚は、社会経済的地位 (SES) などの社会構造的要因に影響される個人の自己効力感の知覚と密接に関連している。意外なことに、環境問題に関する文献では、これらの変数の関係はほとんど注目されてこなかったという (Vrselja et al. 2024)。

### 9: 若者の能力と青年期の発達 (気候変動)

行動能力, 思春期, 思春期の若者, 自律, 気候変動, 関与, 内発的動機づけ, 動機づけ, 所有, 子育て, 認識, 心理的帰属, 理論, 若者

気候変動によって引き起こされる自然災害や異常気象による脅威が、社会のあらゆるセクションやセクターで急増している中、気候変動がもたらす災害やリスクに対するレジリエンスを構築することは、避けて通れない言説となっている (Nyahunda et al. 2024)。(省略)

社会的・生態学的危機は、気候変動や社会的不平等に対して、人々がどのようにして「自分は何かを成し遂げることができる」と感じるようになるのか (自己効力感の知覚) をウェルビーイングする

ことは、より良い世界のために共に行動するよう人々を動機付ける上で極めて重要である。新しい枠組みは、自己効力感を理解するために、どのエージェンティック、行動、目的が重要であるかを示している。人間のエージェンシーを動員するための基盤を作り出す (Hamann et al. 2024)。

### 1: 物質使用と環境要因 (集合的効力感)

アルコール, 児童虐待, 集合的効力感, 犯罪, 障害, 格差, 地理的に加重された回帰, 銃による暴力, 殺人, ホットスポット, 影響, 法的シニズム, 移動, 多層, 近隣, 近隣地域, 物理的環境, 警察, 警察活動, 貧困, 防止, 人種, 科学, 社会的崩壊, 社会的崩壊理論, 社会的プロセス, 空間的ダイナミクス, 空間的パターン, 検証, 被害, 暴力犯

### 2: 活動, アイデンティティ, 社会正義 (エージェンシー)

活動, エージェンシー, 先例, 行動, ケア, 気候変動, 集団行動, 集団エージェンシー, 決定要因, 教育, 環境行動, ガバナンス, グリーン, グループベースの怒り, 希望, アイデンティティ, 意図, ネットワーク, 規範, 政治, ポジティブ・ユース・ディベロップメント, 好み, 環境配慮行動, 自己, 社会的アイデンティティ, 社会的アイデンティティ・モデル, 社会正義, 国家, 米国

### 3: 都市空間における適応と身体活動 (コミュニティレジリエンス, 災害, 自然ハザード, 津波)

適応, 子供, 市民科学, コミュニティ, コミュニティのレジリエンス, 災害, エンパワーメント, 曝露, 健康, メンタルヘルス, モデル, 自然災害, 人々, 身体活動, 備え, レジリエンス, 対応, 感覚, 社会資本, ソーシャルネットワーク, ストレス, 信頼, 津波, 都市共有地, 都市生態学

地域レベルでの市民と政府エージェンシーとの協働行動には、社会的学習とソーシャルキャピタルの増大を通じて、気候リスクに対するコミュニティのレジリエンスを高める可能性がある (Jensen and Ong 2020)。また、自然災害や古い産業の衰退、あるいは新しい産業の発展など、農村コミュニティが大きな変化に直面したとき、その変化にうまく適応しているように見えるコミュニティもあれば、停滞しているコミュニティもある。コミュニティのレジリエンス、ウェルビーイング、キャパシティ、ケイパビリティが、エージェンシーを形成し、それが変化に対するコミュニティのさまざまな反応の根底にあると論じている。コミュニティ・エージェンシーの重要な側面が反映されていた社会的関与の要因から、社会的ネットワークが強い人ほど、地域社会は対応していないと考え、社会的ネットワークが弱い人ほど、地域社会は抵抗していると考えられる傾向があることが示唆された (Leonard et al. 2016, Liu and Ni 2021, Somasundaram and Sivayokan 2013)。

学校や地域社会レベルでは、社会的結束、集合的効力感、地域暴力への曝露といった要因が、バイスタンダー行動の使用に影響を及ぼすことが判明している (Storer et al. 2021)。

混乱した文脈におけるアドホック・オーガナイズングと中小企業に関する文献との関連 (Ho and Teo 2022)。

緑地と身体活動による健康、レジリエンスとつながり、自然環境を大切にする社会的な変化を促

進する (Mejia et al. 2024)。

世界で10億人以上の人々が、洪水リスクの高い都市のインフォーマルな居住地で暮らしている。肯定的な集合的効力感は、コミュニティレベルでの気候変動への適応行動を促進することができる (Salinger et al. 2024)。

#### 7: デザインプロセスにおけるコミットメントと創造性(創発的性質)

コミットメント, 創造性, デザイン, 創発的性質, 運動, 相互依存, 仲介的役割, 自己効力感, パフォーマンス, 代理効果, 量的, 満足感, 自己効力感, チーム, 変革的リーダーシップ

最前線のエージェントとしての AI チャットボット (AI-chatbots) は、顧客と小売業者双方に利益をもたらすサービス提供の形を創り出す革新的な機会を約束する。社会認知理論で定義されたエージェントの観点から現在の慣行を検証し、AI チャットボットの設計における3段階の分類擬人化された役割、外観、双方向性を提示し、チャットボット設計のこれら3つの側面の組み合わせがエージェントの相補性にどのような影響を与えるかを検証する。各レベルにおけるエージェントの相補性が、AI チャットボットの設計をサービス関連の成果に変換する鍵となるメカニズムであると主張する。感情インターフェース、代理 (proxy) エージェントのジレンマの解決、集団エージェントの開発に焦点を当てた研究計画を策定し、AI チャットボットを最前線のサービスエージェントとして実装することを支援する (Chong et al. 2021)。

#### 10: キャリアに対する姿勢と人間としてのエージェンシー (社会認知理論)

態度, キャリア, 集団の潜在能力, 人間のエージェンシー, インターネット, 管理, メカニズム, 性格, 自己効力感信念, 社会的認知理論, 仕事

自己効力感や集合的効力感については様々な文脈で数多くの研究がなされているが、代理効力感についてはほとんど注目されてこなかった。人的な目標の達成と代理人のパフォーマンスが関連している場合、その人の自己効力感が代理 (proxy) 効力感と関連する可能性があることを提案する (Alavi and McCormick 2016)。

アルバート・バンデューラは、コミュニティの成功においてメンバーがエージェンシーを持つ、創発的変数としての集合的効力感という考え方を導入した。集合的効力感とは、集団の成功が2つのレベルにおけるメンバー間の関係性に依存するとみなすものである。すなわち、個人が既存の集団に貢献できていると感じる度合いと、個人が自分自身の能力、欲求、目標と集団の他のメンバーとの間に適合性があると感じる度合いである。彼は、社会的認知理論の中で、3つの様式と4つの中核的性質を持つヒューマン・エージェンシーの理論を洗練させた。ヒューマン・エージェンシーは、人の適応、自己開発、自己再生において重要な役割を果たす。人材開発 HRD と関連性があるにもかかわらず、ヒューマン・エージェンシー理論は、HRD の研究や実践において探求されたり、効果的に活用されたりしてこなかった。(Yoon 2019)

○知覚された自己効力感は、人間のエージェンシーの中心的な自己調整メカニズムとして働いている。自分の行動によって望ましい効果を生み出すことができるという人の信念は、その人の選択、

願望、努力や忍耐のレベル、逆境に対するレジリエンス、ストレスや抑うつに対する脆弱性に影響を与える… (Bandura 1998)。

○社会的認知理論では、個人が経験の生産者であり、出来事の形成者であるというエージェンティックの視点を採用している。人間のエージェンシーの(創発的性質という)メカニズムの中で、個人の効力という信念ほど焦点化され、浸透しているものはない。…逆境へのレジリエンス、業績達成を促進する… (Bandura 2000)。

○人々は自分のエフィカシー信念に基づいて行動することで、電子システムの実現機能を利用し、自分の教育的健康、感情的ウェルビーイング、ワークライフ、組織の革新性、生産性を促進し、自分の生活に影響を与える社会状況を変化させる。テクノロジーは社会の社会構造的性質に影響を与え、また影響を受ける。…力として機能するかは、社会構造の共同決定要因に影響される… (Bandura 2002)。

○社会的認知理論は、人間のエージェンシーと社会構造との二元性を否定する。人は社会システムを創り出し、そのシステムが人々の人生を組織し、影響を与える… (Bandura 2006)。

○知覚された自己効力感の機能的特性を取り上げる。4つの理論的方向性には、エージェンティックの視点に根ざした社会的認知理論、サイバネティック・モデルに根ざしたコントロール理論、そして脱文脈化された特性モデルに基づく特性的自己効力感理論とビッグファイブ理論が含まれる… (Bandura 2012)。

○エージェンシーは、因果関係の三項共決定プロセスを通じて作用する。この一連の理論化から得られた知識は、個人と社会の変化をもたらすために広く応用されており、その中には最も緊急な地球規模の問題に対処する世界的な応用も含まれている… (Bandura 2018)。

その他にも、自己効力感、社会的認知理論については、様々議論されている (Davison et al. 2015, Gao and Arbuckle 2022, Gilbert et al. 2014)。

### 3 エージェンシーを教育という文脈から焦点化する

本節では、教育的文脈で用いられるエージェンシーに焦点化する。「信奉理論 (espoused theories)」を探求し、マッピングした Matusov et al. (2016) が注目される。より正確には、教育実践者が望む支配的な学校実践の中で想定される生徒のエージェンシーについての規範的な見解に焦点を絞り、生徒の抵抗のエージェンシーといった非規範的な新たなエージェンシーを除外する。エージェンシーは「やっかいな」概念であり、エージェンシーという概念を用いる学者も、しばしばその定義や運用を行っていない (Archer 2000 など)。その理由のひとつは、特に教育的文脈に適用する場合、エージェンシーという概念について学者の間でコンセンサスが得られていないことである (Hitlin and Elder Sociological Theory, 25 (2), 170-191, 2007)。…主に教育の文脈で採用されているエージェンシーに関連する4つの主要な規範的概念枠組みを提案する: 1) 道具的 (instrumental), 2) 努力的 (effortful), 3) 動的に創発的 (dynamically emergent), 4) 作者的 (authorial) であるという



ものである (Matusov et al. 2016)。

### 3-1 生徒 (学生)・子どもエージェンシー

**クラスター 1: 「国際高等教育に関するもの」** 主なテーマ: アフォーダンス エージェンシー 態度 能力 コンテキスト 文化 多様性 博士課程の学生 英語 経験 枠組み 高等教育 アイデンティティ 国際教育 留学生 言語 流動性 視点 政策 政治 自己 社会化 時間 大学 女性

このクラスターでは、代表的な例として、環境に対する前例のない世界的課題にもかかわらず、多くの若者がこれらの課題に対処する能力について悲観的であることが調査で明らかになっている。持続可能性の問題について、行動を起こす能力を育成し実践するための、中学校の教師とその生徒向けの1つのアプローチを検討し、国連の「アジェンダ2030」と「持続可能な開発目標 (SDGs)」, 関連する「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の目標, そして「生徒のエージェンシー」の意味についてのレビューを行った (Rap et al. 2022)。

**クラスター 2: 「教育と学習の革新に関するもの」** 主なテーマ: 議論 教室 協働学習コミュニティ 構築 カリキュラムデザイン 談話 認識論的エージェンシー 公平性 経験 学習 リテラシー 参加 力 質 科学 学生の声 教師のエージェンシー 教師 テクノロジー 思考 学部生 仕事

リテラシーについて論じたもの (Chang 2013, Ketonen et al. 2024, Kotler et al. 2024, Park 2023, Rappa and Tang 2017, San Pedro 2015, Savitz et al. 2021, Vaughn 2020, Vaughn et al. 2024, Williams 2015)などが、このクラスターに入る。

**クラスター 3: 「学生のメンタルヘルスと教育に関するもの」** 主なテーマ: 不安 信念 燃え尽き 子ども コミュニティ 大学学生 抑うつ 教育 フィードバック ジェンダー 健康への影響 介入 学習者 数学 認識 心理学 レジリエンス 抵抗 自己効力感 スキル 青少年

レジリエンスと自己効力感 (Heikonen et al. 2017), リスクとレジリエンス (Hillier et al. 2020), 災害とレジリエンス (Nissen et al. 2022)などがこのクラスターに入る。

**クラスター 4: 「生徒の動機づけと学習成果に関するもの」** 主なテーマ: 達成 青年期の行動 関与 調査 内発的動機づけ 正義モデル 動機づけ 教育 パフォーマンス 視点 予測因子 学校 学校の関与 学校 自己決定理論 戦略 学生の行動力 学生の関与 声

自己決定理論 (Boonekamp et al. 2022, Marni et al. 2019, Patall et al. 2019, Reeve and Tseng 2011, Yang et al. 2024)が、このクラスターに入る。

**クラスター 5: 「教育アセスメントと専門能力開発に関するもの」** 主なテーマ: アセスメント コラボレーション コロナウイルス19 適合指数 高等教育 知識 ラーニングアナリティクス 専門 エージェンシー 専門能力開発 感覚 社会認知理論 学生 教師 学生のサポート 教員教育

これについては (Castro and Pineda-Báez 2023, Ng et al. 2024, Saarela et al. 2021, Bennett and Folley 2019, Yu, et al 2024, Yu et al. 2024, Hooshyar, et al 2023, Hooshyar et al. 2023, Jääskelä et al. 2021)などがあり, Sadegh (2022) は、次節とも関連する。

### 3-2 教師エージェンシー

教師エージェンシーという概念への関心が近年高まっている。しかし、教師エージェンシーは依然として定義が曖昧であり、また、日常的な教育実践に当てはめることも難しい。教師が日常的な実践の中で認識し、行うことに根ざした教師エージェンシーとは、私たちが社会化されて認識する従来の機会（アフォーダンス）を超えた機会（アフォーダンス）を認識する能力であると主張するモデルが提起されている。アフォーダンスについては、詳細が述べられている（Carlsen et al. 2016, Boer et al. 2019, Aspbury-Miyaniishi 2022）。また、このエージェンシー概念には、生徒同士の interaction や協働学習に関し5つの鍵となる教師のコンピテンシー開発への示唆を踏まえつつ、生徒が持ち運び可能なバーチャルなリュックサックから状況に応じて生徒が自分の意志でコンピテンシーを取り出せるようにするというメタファーが内包されている。

**クラスター 1: 「教育改革と教員育成に関するもの」** 主なテーマ: 活動理論, エージェンシー, 課題, コラボレーション, コミュニティ, コミュニティ文化, カリキュラム改革, デザイン, 二重刺激, 教育者, EFL 教師, 認知的エージェンシー, 探究の視点, 力, 現職教員, 専門能力開発, 専門能力開発の振り返り, 関係的エージェンシー, 科学教育, 社会文化的理論, 基準, 学生, 教師のコラボレーション, 教師教育, 教師の専門能力開発, 教師のエージェンシー, 思考, 変革的エージェンシー

社会文化理論的なレンズを用い、媒介されたエージェンシーを取り入れながら、教師のアイデンティティ、エージェンシー、コンテキストの間のダイナミックな相互作用が検証されている。教師のエージェンシーと専門的脆弱性を形成する2つの媒介システム、教師のアイデンティティに対する初期の影響、現在の改革状況、これについては、（Lasky, S 2005, Adebayo 2019, Bowen et al. 2021, Chung 2023, Lai, et al 2016）, Lipponen, Kumpulainen, 2011, Oolbekkink-Marchand et al. 2017）などが見られる。なお、フィンランドであるが、教師の能力（コンピテンシー）開発の鍵となる学習のためのプロフェッショナルエージェンシーが論じられている（Toom, et al 2021）。

**クラスター 2: 「教育におけるリーダーシップと学習に関するもの」** 主なテーマ: 達成 中国 能力 創造性 分散型リーダーシップ 生態学的エージェンシー 有効性 関与 倫理 フレームワーク 高等教育 インパクト 指導的リーダーシップ 知識 リーダーシップ モチベーション パフォーマンス 視点 校長リーダーシップ 専門的学習 質 規模 学校 科学 感覚 生徒エージェンシー 生徒教師 テクノロジー 検証

教諭と幼児、デジタルツールのやりとりの分析から、エージェンシーと仲介に関して、私たちは、エージェンシーは活動における人間と非人間のエージェントに分散され、エージェンシーと仲介は相互に関連している（Carlsen et al. 2016）。教師のエージェンシーの発展を支援するための具体的なツールとして、まず教科固有の教師エージェンシーを理解し支援するための統合的エコロジカル・フレームワークをもとに、目標と可能性との関連におけるレパトリーの開発を1年以上追跡調査した生物教師の学生を対象とした実証研究で検証する（Boer et al. 2019）。生態心理学と現象学の観点を取り入れ、教師エージェンシーとは、私たちが社会化されて認識する従来の機会（アフォー

ダンス)を超えた機会(アフォーダンス)を認識する能力である(Aspbury-Miyanishi 2022, Aragon 2022)。

**クラスター 3: 「言語教育と政策に関するもの」** 主なテーマ: 説明責任 可能性 自治 バイリンガル教育 教室 カリキュラム 生態学的視点 教育政策 英語 公平性 時代 アイデンティティ アイデンティティのコミットメント 指導 言語 言語政策 言語教師の権限 学習者の権限 読み書き能力 モデル 多言語主義 政策 プログラム 空間 教師の権限 ベトナム

中学校での、概念的な学習と生徒の学びへの学習力(L2L)へのエージェンシーを高めることの両方を支援するために、技術やその他のリソースがどのような支援を提供するのかについて、実践者が認識する必要性について問題を提起している(Engeness 2020)。

**クラスター 4: 「初任教師と教育現場の課題に関するもの」** 主なテーマ: 消耗 新任教師 建設文脈 コロナウイルス 談話 初期キャリアの教師 経験 高等教育 語学教師 物語 ナラティブ・インクワイアリー 新人教師 オンライン教育 現職前教師 レジリエンス 学校 自己物語 教師の自律性 教師の成長 教師のアイデンティティ 脆弱性

談話におけるエージェンシーを実行するための言語資源として報告発話を対象とし、焦点を当てるのは、インタビューを受けた親がこの資源を活用して、子供の教育者に対してエージェンシーを実行し、交渉する様子を追跡することである(Bubikova-Moan 2019)。

**クラスター 5: 「教師の成長と職業的ストレスに関するもの」** 主なテーマ: 信念、バーンアウト、ケーススタディ、教室でのコラボレーション、コミットメント、適合指数、プロフェッショナル・エージェンシー、プロフェッショナル・ラーニング、質、自己効力感、社会的認知理論、ストレス、学生教師、サポート、教師の学習、価値観、ワークエンゲージメント

下記の図のように、教師のエージェンシーを状況的かつ発展的プロセスとして理解する上で大きく貢献しており、そのプロセスは主に3つの段階に分けられる。すなわち、源泉、遂行、成果である。教師のエージェンシーの源泉または推進力は、信念、反省的な洞察、共同作業といった個人的または社会的要因によって支えられている。次に、教師のエージェンシーのエナクトメント(上演)による達成は、教師の心理(キャパシティ、解釈・感情、動機、目標、選択肢)、教師の道具的行動(すなわち、志向性、個人・集合的エージェンシーの様式、自己調整)、社会文化的文脈(例: ミクロマクロな政策と規制、労働の分業、力学、文化、資源)さらに、関係性/集団のエージェンシーが、組織的なシステムの変化の創出に役立つ(Ngo Cong-Lem 2021)。

Deschênes (2022) は、次のように述べる。エージェント性の本質として、使用された67の定義(41.9%)はキャパシティに言及しており、以下のようなバリエーションがある。「しかし、このキャパシティの概念をエコロジカル・アプローチと区別する著者もいる。しかし、一部の著者は、このキャパシティの概念を生態学的アプローチとは区別している: 「能力は、生態学的方法で理解することができる。つまり、それが達成される文脈的条件と強く結びついているのであって、単に個人の能

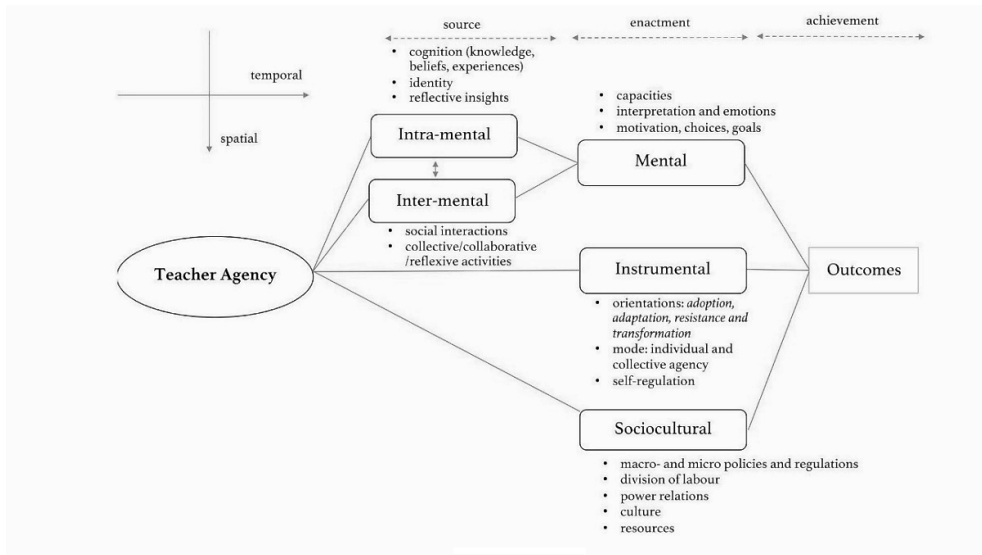


図3 An integrative framework for teacher agency (Ngo Cong-Lem 2021, p.730)

力や所有物として理解することはできない」…。より少ない程度ではあるが、例えば、相互作用についても言及されている…「個人の能力と環境条件の相互作用」……。現象という概念を用いてエージェンシー性を扱った論文はわずかであり、「エージェンシーとは、個人的な歴史、言説、文化的な道具、そして想像を通じて反復的に発展する、動的で時間的な現象である」と指摘しているという (Deschênes and Parent 2022)。

教師のエージェンシーは、専門的な能力開発において、教授と学習に関する知識を構築する上で不可欠な役割を果たす。教師のエージェンシーは、動機に応じ、教育のある特定の文脈の中で発生する。教師の実践的、関係的、暗黙的な知識を明示的な専門的資本のレベルに引き上げることによって、教師が学校文化や社会構造の中で自らを能動的なエージェンシーとみなすような「全体性」の感覚を促すためには、専門職養成が必要である (Sang 2020)。

**クラスター 6: 「インクルーシブ教育と社会正義に関するもの」** 主なテーマ: 子ども 概念 障害 教育 インクルーシブ教育 数学 教授法 プロフェッショナリズム 抵抗 社会正義 教えること 都市 都市教育

代表的なものとして、障害者教育 インクルーシブ教育から教師のエージェンシーに関する既存の理論を統合し、インクルーシブな教育のために教師のエージェンシーを強化または制約する要因を要約した文献がある (Li and Ruppap 2021)。

**クラスター 7: 「教育改革と教師の専門性に関するもの」** 主なテーマ: 文脈 教育改革 感情 革新 認識 職業的アイデンティティ 改革 意味の理解 教師 教師たち

教師たちが学問分野を超えて協力し、大学進学を目指さない生徒向けの統合的な STEM カリキュラムを作成、実施、普及させ、最終的に学校の生徒全体に人気となるカリキュラムとした

(Balgopal 2020)。

複雑な非線形ラーニングアナリティクス (LA) 技法が従来のものを凌駕することが示されている。グループ構成, ピア・アセスメント, LA による社会的共有調整学習 (Socially Shared Regulation) を適用することで, 社会的共有調整学習, 共調整学習, そして結果的に SRL スキルが向上し, 最終的に CSCL 環境におけるエージェンシーおよび知識共構築活動が促進されることが明らかになった (Sadegh 2022)。

バーチャルな仮想エージェントは, 学習効果, 記憶力, 社会的存在感, 学習体験, モチベーションを高めることで, 言語学習を向上させることができる。仮想エージェントに基づく言語学習研究は, 擬人化された仮想エージェント, 仮想エージェントがもたらす効果, 仮想エージェントの社会的相互作用, アニメーション化された仮想エージェントと言語習得, 仮想エージェントのジェスチャー, 仮想エージェントが学習者の特性に及ぼす影響, コンピュータ支援学習, 仮想エージェントの設計という8つのクラスターに分類された (Gu et al. 2023)。

クラスター 8: 「教育改革と教師のアイデンティティに関するもの」 主なテーマ: 集成的エージェンシー 教育改革 アイデンティティ 新自由主義 社会文化的アプローチ 教員養成

(省略)

#### 4 まとめにかえて

エージェンシーという概念は, もともと西洋中心の歴史的な文脈に基づくもので, しかし近年ではアジアからのアプローチも多くみられることが分かった。これを, 明示化していく方法論は有益であること, しかし, 同時に文化的文脈に依存することも, わかった。日本文化の旧来型の大勢順応, 同調圧力 (pressure for conformity) のもとでは, 現状, 下記のような論説はかなりの温度差があるのではないかと。「持続可能性の移行は, 技術的な障壁によって妨げられているのではなく, 何よりもウェルビーイング人材の不足によって妨げられている。従って, 次世代のエンジニアや製品デザイナーを教育することは, これまで以上に重要である。しかし, 広く使われている従来の教育・評価モデルでは, この次世代を社会の要求に対応させるには不十分である。カリキュラムをうまく当てはめ, 適応させることが適切である。問題は, 生徒が学習のエージェンティックとなるような教育モジュールをどのように開発するかである。学生たちは, 感情的に内在する価値観を探究することで, 偉大なことを成し遂げ, 人生や仕事に意味を見出すことができるようになり, 重要な学習経験を獲得することができる」(van Dijck et al. 2023)。

その際に, 日本的文化的文脈では, DX の一部, 現実空間の情報をサイバー空間上に再現する技術 (デジタルツウィン = 仮想空間上で, データ分析やシミュレーションを実行することで, 現実空間にフィードバックして社会やビジネスプロセスを進化) など, むしろ防災教育における開発主体としての若者と子どもたちの役割に, より大きな注目が集まるのではないかと問題提起はできよう。それは, 災害学と子どもの地理学における議論を踏まえ, 私たちは, 防災管理の実践では見

過ごされがちな、日常的な正規の教育の場が、「災害への備えとレジリエンス計画」に子どもたちを参加させる。気候変動への適応戦略において、子どもたちの正規の教育の場をより積極的に活用する必要性を訴える一方で、子どもや若者たちを「成長過程にある大人」としてのみ捉えるのではなく、現在の行動力や日常的な能力を持つ影響を受ける個人として捉えることの重要性を指摘する (Iona et al 2024)。

欧州においては、リスク社会におけるレジリエンスと自己調整学習については、研究の厚みがある (Artuch Garde et al 2017)。また、方法論として、レジリエンスは、幼少期に実践することで、精神衛生を促進する保護特性となり得る。子どもたちがレジリエンスを学習するのを促すために、ストーリーテリングの活用を検討している。読み聞かせというツールが、レジリエンスに基づく行動介入の機会を子どもたちに提供することが示された (Tillott et al. 2021)。

一方で、日本では、海外からは、フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルの教育セクターのすべてにおいて、創造性と自主性が重要な能力となる防災文化の醸成に取り組んでいるという指摘がある。東京は世界で最も人口の多い大都市圏であり、その教育システムは災害リスク軽減教育の国際的なモデルとなっている。世界中の都市部は同様の課題に直面しており、同様のニーズを抱えている。日本の教育システムをモデルとして、大都市における人間的要因が直面する課題と、災害リスク軽減教育 (DRE) を通じて個人とコミュニティのレジリエンスを高める可能性について取り上げられている (Gavari-Starkie et al. 2021)。

さらに、これに加えて、形成的アセスメントの実践は共調整を促進する可能性があるが、現象学的研究により、生徒のエージェンシーが教室でのアセスメントと共調整の橋渡しとなり、また、形成的アセスメントと共調整が相互に支え合う双方向の関係にあることが示唆された (Braund et al. 2021)。一方、ペダゴジー (教授法)、指導、学習、(カリキュラム)教科分野に影響された教育活動とアセスメントを設計するモデルは、正式な外部アセスメントの妥当性を高めることができる (Black & Wiliam 2018) とある<sup>注2)</sup>。

この日本におけるエージェンシーの特徴は、自己卑下でなく、自己主張、自己拡張、自己防衛である。一方で、米国のエージェンシーは、無私、弱さを認める意志、そして育む「関係」を作る必要性を特徴としている (Hamilton 1989)。日本国内では、エージェンシーを理解するにあたって、個人的および集合的効力感に焦点を当てるのが、形成的アセスメントと同様に重要であり、奥底にある、形成的アセスメントと共存させ顕在化することがきわめて有益である<sup>注3)</sup>。

このアプローチは、一日防災学校など、ノンフォーマルな学習実践に力を入れてきた日本が、世界に向けて提起できる価値あるモデルとなり得る。特に、ホーリスティックかつインクルーシブな取り組みを通じた因果的エージェンシーにより<sup>注4)</sup>、ウェルビーイングに迫ろうとしていることは特徴的である。さらに、ユネスコの『学習：秘められた宝』(1996)における「人間として生きることを学ぶ」に対する日本のレジリエンス研究への期待を発信することも、大きな意義を持つ。

この研究の波及効果として、9月1日の防災の日の意義づけや、国の政策と実践をつなぐ研究の発

展が期待され、さらにポストSDGsとして閣議決定された「日本発ウェルビーイング」(SWGs: Sustainable Well-being Goals)に基づく国際教育協力にも繋がる。

## 【注】

注1)バンデューラはいう。「自己効力の調査を文化を越えて同じように成し遂げるのは難しそうである。個人の効力についての高い信念を公に表現することは、社会的な犠牲を受けやすくし、これらの社会的な犠牲は文化によって異なるようだ。ゴッフマン (Goffman,1955,1959)の自己表現についての落書では、人に従うことは社会的相互関係をうまく保つと指摘している。つまり効力感を公に表現しすぎないことで、他の人が相対的に効力を失う(例えば、顔をつぶす)といった危険性を減らすことができる。対人関係の調和を大切にす文化 (Markus & Kitayama, 1991; Rosenberger, 1992を参照のこと)は自己効力についての信念を公に表現することをよしとしない。個人の業績についての満足感を表現することでさえも抑制することがなされている。ステイベック、ワイナーとリ (Stipek, Weiner, & Li, 1989)は、中国人はアメリカ人よりも、プライドの源として自分自身の成功した努力を公表したと報告している。北山とマークス (Kitayama & Markus, 1990)は、日本の被調査者がプライドを、負い目がある、恥ずかしいといった感情や罪悪感と結びつけていることを見出した。しかし、これらの発見から相互関係を重要視する文化間の人々は、目立たないようにしようという文化の規準に屈するがために、真の個人の効力感を報告しようとし、と結論づけをしてもよいのだろうか。ホフスティッドの文化論が示すように、集団主義の文化の人々は、グループ外ではなく、グループ内の相互関係を円滑にすることに焦点を当てている。つまり、ここに記述されている『効力感を自分から表現しないこと』とは、グループ内のメンバーのみに適応されている。集団主義者は、グループ外のメンバーに対して強い効力感を表出したところで何の不安も感じない」(Bandula 1995: 1997)。

注2) 日常実践とペダゴジー、カリキュラム、アセスメントの相互関連に気付き見直すことは、きわめて重要である。そこでは、教育課程、学習指導法、学習評価という旧来からの枠組みでは、意識改革がなされず、躓きの石に自らがつまずく (Stumbling block)、トロイの木馬 (一見無害または有益に見えるソフトウェアやファイルの中に、悪意のあるコードが隠されているマルウェア)としても、克服すべき課題を指摘しつつ、展望を得る。この背景のもと、JST/SICORP 日米戦略的国際共同研究プログラム (2021-22)の採択が大きな契機となり、特に高校生からの意味のあるレジリエンスデータを収集することの重要性を認識した。また、Bibliometrixの一つであるVOSviewerに加え、NVivoを活用することで、解釈しやすい系統的文献レビューの応用を図るというアプローチに至った。

注3) 研究方法では、教師のアイデンティティ、エージェンシー、そして文脈の間にある動的な相互作用について検討する。全国の高校生が災害リスクへの対応成果発表に関する研究を基に方法論を派生させる。量的・質的データ (ストーリーテリングを含む)を教師と生徒から収集する。従来、教師のレジリエンスやオートノミーという用語は、暗黙の了解として教師エージェンシーと交換可能なものとして扱われてきた。しかし、教師エージェンシーを、困難を克服するウェルビーイングな特性を持つ独自の概念として捉え、すべての学習者の多様なニーズを満たすために教育環境を変革する重要な役割を担うものとする。

本研究の理解を深めるために以下の問いを立てる。

- Q1: 教師エージェンシーはどのように理論化されているか?
- Q2: 教師エージェンシーのどの側面に焦点を当てるか?
- Q3: 教師エージェンシーに対して何が後押しし、何が制約となるのか?

理論的には、以下の2つの枠組みを参照する。

1. 社会文化的理論: エージェンシーは現象として研究され、社会的な関わりの中で時間的に埋め込まれたプロセスと

して概念化される。教師のエージェンシーは、コンテキストを超えて移動できる固定的な内的特性ではなく、教師がコンテキストとの意図的な相互作用に関与する際に継続的に形成されるものとする。

2. 社会認知理論 (Bandura, 2018) : エージェンシーは人間の心理社会的機能として捉えられ、社会文化的環境やライフコースを形成し、それによって形成される個人や集団の能力として理解される。教師エージェンシーは、メンバー間で共有された知識、スキル、協働を伴う包括的な学習コミュニティを創造するための個人的・集団の能力として定義される。

注4) 仙台防災枠組(2015-2030)は、レジリエンスの強化と災害リスクの軽減を目的とした、貴重かつ包括的な枠組みである。この枠組みは、重要なインフラの機能停止や基本サービスへの破壊を実質的に減少させることを目指している。しかし、本研究では、この枠組みを単にハード面だけでなく、ソフト面にも対応できるものとして解釈する。具体的には、仙台防災枠組の4つの重要な優先事項を以下のように読み替えることができる。(1) 災害リスクを理解すること、(2) 災害リスク管理のためのガバナンスを向上させること、(3) 災害リスク軽減のための投資を通じてレジリエンスを高めること、そして、(4) 効果的な対応と復興のための備えを強化することである。特に、優先行動4 効果的な応急対策に向けた準備の強化と「より良い復興(ビルド・バック・ベター)」については、(1) 自助・共助・公助の協働による防災・減災昭和54年(1979年)に「市民防災の日」を定めて以降、毎年市内各地で地域住民や町内会などの様々な関係者と連携して総合防災訓練を実施している。平成24年度(2012年度)からは、東日本大震災時の経験を踏まえた避難所運営に関する訓練も取り入れている。各地域において、地震や水害など地域の特性に応じた想定で地域主体の訓練を行うとともに、公共交通機関の停止を想定した市中心部での帰宅困難者対応訓練(31頁参照)、東部沿岸地域における津波避難訓練などを実施し、自助・共助・公助を組み合わせ、大規模災害の発生に備えている。さらに、これを海外で進展している「人間中心データからのレジリエンス研究(HCD4R)」手法と組み合わせることによって、新たな視点を導入することが可能となる。

## [Reference]

- Adebayo, S. B. (2019) : Emerging perspectives of teacher agency in a post-conflict setting: The case of Liberia. In *Teaching and Teacher Education* 86. DOI: 10.1016/j.tate.2019.102928.
- Abele, A.; N. Hauke; K. Peters; E. Louvet; Aleksandra Szymków; Y. Duan (2016) : Facets of the Fundamental Content Dimensions: Agency with Competence and Assertiveness-Communion with Warmth and Morality. In *Frontiers in Psychology* 7. DOI: 10.3389/fpsyg.2016.01810.
- Alavi, S. B.; McCormick, J. (2016) : Implications of Proxy Efficacy for Studies of Team Leadership in Organizational Settings. In *EUROPEAN PSYCHOLOGIST* 21 (3), pp. 218-228. DOI: 10.1027/1016-9040/a000270.
- Anyi Ma; A. S. Rosette; C. Koval (2017) : A Multidimensional Scale of Agency 2017, p. 14686. DOI: 10.5465/AMBPP.2017.14686ABSTRACT.
- Aragon, M. J. (2022) : ?I think they?re Hispanic?: Agency and meaning-making in Latinx students? discussions about text. In *Linguistics and Education* 69. DOI: 10.1016/j.linged.2022.101045.
- Artuch-Garde, Raquel; Del González-Torres, Maria Carmen; La Fuente, Jesús de; Vera, M. Mariano; Fernández-Cabezas, María; López-García, Mireia (2017): Relationship between Resilience and Self-regulation: A Study of Spanish Youth at Risk of Social Exclusion. In *Frontiers in Psychology* 8, p. 612. DOI: 10.3389/fpsyg.2017.00612.
- Aspbury-Miyanishi, E. (2022) : The affordances beyond what one does: Reconceptualizing teacher agency with



- Heidegger and Ecological Psychology. In *Teaching and Teacher Education* 113. DOI: 10.1016/j.tate.2022.103662.
- Balgopal, M. M. (2020) : STEM teacher agency: A case study of initiating and implementing curricular reform. In *Science Education* 104 (4), pp. 762-785. DOI: 10.1002/sce.21578.
- Bandura, Albert (1995:1997) : *Self-efficacy in changing societies*: Cambridge University Press. (本明, 寛. 他訳『激動社会の中の自己効力』金子書房.)
- Bandura, A. (1998) : Personal and collective efficacy in human adaptation and change. In J. G. Adair, D. Belanger, K. L. Dion (Eds.). *Advances in Psychological Science*, VOL 1: SOCIAL, PERSONAL AND CULTURAL ASPECTS, pp. 51-71.
- Bandura, A. (2000) : Exercise of human agency through collective efficacy. In *Current Directions in Psychological Science* 9 (3), pp. 75-78. DOI: 10.1111/1467-8721.00064.
- Bandura, A. (2002) : Growing primacy of human agency in adaptation and change in the electronic era. In *European Psychologist* 7 (1), pp. 2-16. DOI: 10.1027//1016-9040.7.1.2.
- Bandura, A. (2006) : Toward a Psychology of Human Agency. In *Perspectives on Psychological Science* 1 (2), pp. 164-180. DOI: 10.1111/j.1745-6916.2006.00011.x.
- Bandura, A. (2012) : On the Functional Properties of Perceived Self-Efficacy Revisited. In *Journal of Management* 38 (1), pp. 9-44. DOI: 10.1177/0149206311410606.
- Bandura, A. (2018) : Toward a Psychology of Human Agency: Pathways and Reflections. In *Perspectives on Psychological Science* 13 (2), pp. 130-136. DOI: 10.1177/1745691617699280.
- Bennett, L.; Folley, S. (2019) : Four design principles for learner dashboards that support student agency and empowerment. In *Journal of Applied Research in Higher Education* 12 (1), pp. 15-26. DOI: 10.1108/JARHE-11-2018-0251.
- Black, Paul; Wiliam, Dylan (2018) : Classroom assessment and pedagogy. In *Assessment in Education: Principles, Policy & Practice* 25 (6), pp. 551-575. DOI: 10.1080/0969594X.2018.1441807.
- Blessinger, P. and Rao, M. B. (2023). Fostering Sustainable Learning Ecosystems, *Higher Education Tomorrow*, Volume 9, Article 3, <https://www.patrickblessinger.com/fostering-sustainable-learning-ecosystems> (Accessed 30th September 2024)
- Boer, E. de; Janssen, FJJM; Dam, M.; van Driel, J. H. (2019) : Development of teacher agency by student teachers: An ecological perspective. In *PEDAGOGISCHE STUDIEN* 96 (6), pp. 354-377.
- Boonekamp, G. M.M.; Dierx, J. A.J.; Jansen, E. (2022) : Shaping Physical Activity through Facilitating Student Agency in Secondary Schools in the Netherlands. In *International Journal of Environmental Research and Public Health* 19 (15). DOI: 10.3390/ijerph19159028.
- Bowen, NEJA; Satienchayakorn, N.; Teedaaksornsakul, M.; Thomas, N. (2021) : Legitimising teacher identity: Investment and agency from an ecological perspective. In *Teaching and Teacher Education* 108. DOI: 10.1016/j.tate.2021.103519.
- Braund, H.; Christopher DeLuca; E. Panadero; Liying Cheng (2021) : Exploring Formative Assessment and Co-Regulation in Kindergarten Through Interviews and Direct Observation 6. DOI: 10.3389/feduc.2021.732373.
- Bubikova-Moan, J. (2019) : Reported parent-teacher dialogues on child language learning: voicing agency in interview narratives. In *International Journal of Bilingual Education and Bilingualism* 22 (6), pp. 768-786. DOI:

10.1080/13670050.2017.1313192.

- Carlsen, M.; Erfjord, I.; Hundeland, P. S.; Monaghan, J. (2016) : Kindergarten teachers' orchestration of mathematical activities afforded by technology: agency and mediation. In *Educational Studies in Mathematics* 93 (1), pp. 1-17. DOI: 10.1007/s10649-016-9692-9.
- Castro, U. E.T.; Pineda-Báez, C. (2023) : How has the conceptualisation of student agency in higher education evolved? Mapping the literature from 2000-2022. In *Journal of Further and Higher Education* 47 (9), pp. 1182-1195. DOI: 10.1080/0309877X.2023.2231358.
- Chang, B. J. (2013) : Voice of the voiceless? Multiethnic student voices in critical approaches to race, pedagogy, literacy and agency. In *Linguistics and Education* 24 (3), pp. 348-360. DOI: 10.1016/j.linged.2013.03.005.
- Chong, T.; Yu, T.; Di Keeling; Ruyter, K. de (2021) : AI-chatbots on the services frontline addressing the challenges and opportunities of agency. In *Journal of Retailing and Consumer Services* 63. DOI: 10.1016/j.jretconser.2021.102735.
- Chung, J. (2023) : Research-informed teacher education, teacher autonomy and teacher agency: the example of Finland. In *London Review of Education* 21 (1). DOI: 10.14324/LRE.21.1.13.
- Davison, J.; Share, M.; Hennessy, M.; Knox, B. S. (2015) : Caught in a 'spiral'. Barriers to healthy eating and dietary health promotion needs from the perspective of unemployed young people and their service providers. In *Appetite* 85, pp. 146-154. DOI: 10.1016/j.appet.2014.11.010.
- Deschênes, M.; Parent, S. (2022) : Toward a definition of teacher agency. A systematic literature review. In *Revue Des Sciences De L Education* 48 (3).
- Semiotic Point of View. In *Journal of Philosophy of Education* 48, pp. 621-636. DOI: 10.1111/1467-9752.12080.
- Engeness, I. (2020) : Teacher facilitating of group learning in science with digital technology and insights into students' agency in learning to learn. In *Research in Science & Technological Education* 38 (1), pp. 42-62. DOI: 10.1080/02635143.2019.1576604.
- European Commission (2020) : *Prospective report on the future of non-formal and informal learning - Towards lifelong and life-wide learning ecosystems*. Available online at <https://data.europa.eu/doi/10.2766/354716>.
- Ford, M.; Ross A. Thompson (1985) : Perceptions of Personal Agency and Infant Attachment: Toward a Life-Span Perspective on Competence Development. In *International Journal of Behavioral Development* 8, pp. 377-406. DOI: 10.1177/016502548500800402.
- Gao, L. J.; Arbuckle, J. (2022) : Examining farmers' adoption of nutrient management best management practices: a social cognitive framework. In *Agriculture and Human Values* 39 (2), pp. 535-553. DOI: 10.1007/s10460-021-10266-2.
- Gavari-Starkie, Elisa; Casado-Claro, Maria-Francisca; Navarro-González, Inmaculada (2021) : The Japanese Educational System as an International Model for Urban Resilience. In *International Journal of Environmental Research and Public Health* 18 (11). DOI: 10.3390/ijerph18115794.
- Gilbert, R. B.; Adesope, O. O.; Schroeder, N. L. (2014) : Efficacy beliefs, job satisfaction, stress and their influence on the occupational commitment of English-medium content teachers in the Dominican Republic. In *Educational Psychology* 34 (7), pp. 876-899. DOI: 10.1080/01443410.2013.814193.
- Gu, Xinyan; Yu, Taxue; Huang, Jun; Wang, Feng; Zheng, Xiaoli; Sun, Mengxiang et al. (2023) : Virtual-Agent-Based

- Language Learning: A Scoping Review of Journal Publications from 2012 to 2022. In *SUSTAINABILITY* 15 (18), p. 13479. DOI: 10.3390/su151813479.
- Hamilton, Ester E. (1989) : An empirical test of the relationship between agency/communion and influence in work groups. In *International Journal of Value-Based Management* 2 (1), pp. 53–70. DOI: 10.1007/BF01714970.
- Hamann, K. R.S.; Wullenkord, M. C.; Reese, G.; van Zomeren, M. (2024) : Believing That We Can Change Our World for the Better: A Triple-A (Agent-Action-Aim) Framework of Self-Efficacy Beliefs in the Context of Collective Social and Ecological Aims. In *Personality and Social Psychology Review* 28 (1), pp. 11-53. DOI: 10.1177/10888683231178056.
- Heikonen, L.; Pietarinen, J.; Pyhältö, K.; Toom, A.; Soini, T. (2017) : Early career teachers' sense of professional agency in the classroom: associations with turnover intentions and perceived inadequacy in teacher-student interaction. In *Asia-Pacific Journal of Teacher Education* 45 (3), pp. 250-266. DOI: 10.1080/1359866X.2016.1169505.
- Hillier, A.; Kroehle, K.; Edwards, H.; Graves, G. (2020) : Risk, resilience, resistance and situated agency of trans high school students. In *Journal of LGBT Youth* 17 (4), pp. 384-407. DOI: 10.1080/19361653.2019.1668326.
- Hooshyar, D.; Tammets, K.; Ley, T.; Aus, K.; Kollom, K. (2023) : Learning Analytics in Supporting Student Agency: A Systematic Review. In *Sustainability* 15 (18). DOI: 10.3390/su151813662.
- Im Koskela; Paloniemi, R. (2023) : Learning and agency for sustainability transformations: building on Bandura's theory of human agency. In *Environmental Education Research* 29 (1), pp. 164-178. DOI: 10.1080/13504622.2022.2102153.
- Iona Bell, Nina Laurie, Oliver Calle, Maria Carmen, Amanda Valdez (2024) : Education for disaster resilience: Lessons from El Niño. In *Geoforum* 148.
- Ishihara, N.; Carroll, S. K.; Mahler, D.; Russo, A. (2018) : Finding a niche in teaching English in Japan: Translingual practice and teacher agency. In *System* 79, pp. 81-90. DOI: 10.1016/j.system.2018.06.006.
- Jääskelä, P.; Heilala, V.; Kärkkäinen, T.; Häkkinen, P. (2021) : Student agency analytics: learning analytics as a tool for analysing student agency in higher education. In *Behaviour & Information Technology* 40 (8), pp. 790-808. DOI: 10.1080/0144929X.2020.1725130.
- Jensen, O.; Ong, C. (2020) : Collaborative Action for Community Resilience to Climate Risks: Opportunities and Barriers. In *Sustainability* 12 (8). DOI: 10.3390/su12083413.
- Ketonen, L.; Lehesvuori, S.; Pöysä, S.; Pakarinen, E.; Lerkkanen, M. K. (2024) : Teacher and student teacher views of agency in feedback. In *European Journal of Teacher Education* 47 (3), pp. 548-563. DOI: 10.1080/02619768.2022.2071258.
- Koskela, Im; Paloniemi, R. (2023) : Learning and agency for sustainability transformations: building on Bandura's theory of human agency. In *ENVIRONMENTAL EDUCATION RESEARCH* 29 (1), pp. 164–178. DOI: 10.1080/13504622.2022.2102153.
- Kotler, R.; Rosario, M.; Varelas, M.; Phillips, N. C.; Tsachor, R. P.; Woodard, R. (2024) : Latinx students embodying justice-centered science: Agency through imagining via the performing arts. In *Science Education* 108 (3), pp. 851-889. DOI: 10.1002/sce.21859.
- Lasky, S. (2005) : A sociocultural approach to understanding teacher identity, agency and professional vulnerability in a context of secondary school reform. In *Teaching and Teacher Education* 21 (8), pp. 899–916. DOI: 10.1016/j.tate.2005.06.003.

- Lai, Chun; Li, Zhen; Gong, Yang (2016) : Teacher agency and professional learning in cross-cultural teaching contexts: Accounts of Chinese teachers from international schools in Hong Kong. In *Teaching and Teacher Education* 54, pp. 12-21. DOI: 10.1016/j.tate.2015.11.007.
- Leonard, R.; McCrea, R.; Walton, A. (2016) : Perceptions of community responses to the unconventional gas industry: The importance of community agency. In *Journal of Rural Studies* 48, pp. 11-21. DOI: 10.1016/j.jrurstud.2016.09.002.
- Li, L. Y.; Ruppap, A. (2021) : Conceptualizing Teacher Agency for Inclusive Education: A Systematic and International Review. In *Teacher Education and Special Education* 44 (1), pp. 42-59. DOI: 10.1177/0888406420926976.
- Lipponen, L.; Kumpulainen, K. (2011) : Acting as accountable authors: Creating interactional spaces for agency work in teacher education. In *Teaching and Teacher Education* 27 (5), pp. 812-819. DOI: 10.1016/j.tate.2011.01.001.
- Liu, W. L.; Ni, L. (2021) : Relationship matters: How government organization-public relationship impacts disaster recovery outcomes among multiethnic communities\*. In *Public Relations Review* 47 (3). DOI: 10.1016/j.pubrev.2021.102047.
- Louvet, E.; L. Cambon; I. Milhabet; O. Rohmer (2019) : The relationship between social status and the components of agency. In *The Journal of Social Psychology* 159, pp. 30-45. DOI: 10.1080/00224545.2018.1441795.
- Mameli, C.; Molinari, L.; Passini, S. (2019) : Agency and responsibility in adolescent students: A challenge for the societies of tomorrow. In *British Journal of Educational Psychology* 89 (1), pp. 41-56. DOI: 10.1111/bjep.12215.
- Matusov, E.; Katherine von Duyke; S. Kayumova (2016) : Mapping Concepts of Agency in Educational Contexts. In *Integrative Psychological and Behavioral Science* 50, pp. 420-446. DOI: 10.1007/s12124-015-9336-0.
- Mejia, D. M.B.; Chilton, J.; Rutherford, P. (2024) : Collective urban green revitalisation: Crime control an sustainable behaviours in lower-income neighbourhoods. In *World Development* 177. DOI: 10.1016/j.worlddev.2024.106534.
- Mollaret, P.; Delphine Miraucourt (2016) : Is job performance independent from career success? A conceptual distinction between competence and agency. In *Scandinavian Journal of Psychology* 57 6, pp. 607-617. DOI: 10.1111/sjop.12329.
- NCCA (2023) Draft Updated Aistear: the Early Childhood Curriculum Framework for consultation. (pp.49-54) . [https://ncca.ie/media/6362/draftupdatedaistear\\_for-consultation.pdf](https://ncca.ie/media/6362/draftupdatedaistear_for-consultation.pdf)
- Ng, A. D.X.; Ong, A.; Lee, A. V.Y.; Teo, C. L. (2024) : Implementing learning analytics interventions to support student agency in knowledge building. In *Pedagogies* 19 (3), pp. 372-402. DOI: 10.1080/1554480X.2024.2379786.
- Ngo Cong-Lem (2021) : Teacher agency: A systematic review of international literature. In *Issues in Educational Research* 31 (3), pp. 718-738.
- Nissen, S.; Carlton, S.; Wong, J. H.K. (2022) : Gaining 'authority to operate': student-led emergent volunteers and established response agencies in the Canterbury earthquakes. In *Disasters* 46 (3), pp. 832-852. DOI: 10.1111/disa.12496.
- Nyahunda, L.; Nemaconde, L. D.; Khoza, S. (2024) : Exploring the determinants of disaster and climate resilience building in Zimbabwe's rural communities. In *Natural Hazards* 120 (11), pp. 10273-10291. DOI: 10.1007/s11069-024-06605-1.
- Oolbekkink-Marchand, H. W.; Hadar, L. L.; Smith, K.; Helleve, I.; Ulvik, M. (2017) : Teachers' perceived professional space and their agency. In *Teaching and Teacher Education* 62, pp. 37-46. DOI: 10.1016/j.tate.2016.11.005.

- Park, J. Y. (2023) : Agency, Identity, and Writing: Perspectives from First-Generation Students of Color in Their First Year of College. In *Research in the Teaching of English* 57 (3), pp. 227-247.
- Patall, E. A.; Pituch, K. A.; Steingut, R. R.; Vasquez, A. C.; Yates, N.; Kennedy, A. A.U. (2019) : Agency and high school science students' motivation, engagement, and classroom support experiences. In *Journal of Applied Developmental Psychology* 62, pp. 77-92. DOI: 10.1016/j.appdev.2019.01.004.
- Paton, D.; Houghton, B. F.; Gregg, C. E.; McIvor, D.; Johnston, D. M.; Bürgelt, P. et al. (2009) : Managing Tsunami Risk: Social Context Influences on Preparedness. In *Journal of Pacific Rim Psychology* 3 (1), pp. 27-37. DOI: 10.1375/prp.3.1.27.
- Paton, D.; Sagala, S.; Okada, N.; Jang, L. J.; Bürgelt, P. T.; Gregg, C. E. (2010) : Making sense of natural hazard mitigation: Personal, social and cultural influences. In *Environmental Hazards-Human and Policy Dimensions* 9 (2), pp. 183-196. DOI: 10.3763/ehaz.2010.0039.
- Pikkarainen, E. (2014) : Competence as a Key Concept of Educational Theory: A Semiotic Point of View. In *Journal of Philosophy of Education* 48, pp. 621-636. DOI: 10.1111/1467-9752.12080.
- Rap, S.; Blonder, R.; Sindiani-Bsoul, A.; Rosenfeld, S. (2022) : Curriculum development for student agency on sustainability issues: An exploratory study. In *Frontiers in Education* 7. DOI: 10.3389/educ.2022.871102.
- Rappa, N. A.; Tang, K. S. (2017) : Student Agency: an Analysis of Students' Networked Relations Across the Informal and Formal Learning Domains. In *Research in Science Education* 47 (3), pp. 673-684. DOI: 10.1007/s11165-016-9523-0.
- Reeve, J.; Tseng, C. M. (2011) : Agency as a fourth aspect of students' engagement during learning activities. In *Contemporary Educational Psychology* 36 (4), pp. 257-267. DOI: 10.1016/j.cedpsych.2011.05.002.
- Saarela, M.; Heilala, V.; Jääskelä, P.; Rantakaulio, A.; Kärkkäinen, T. (2021) : Explainable Student Agency Analytics. In *IEEE ACCESS* 9, pp. 137444-137459. DOI: 10.1109/ACCESS.2021.3116664.
- Sadegh, T. (2022) : Leveraging Regulatory Learning Facilitators to Foster Student Agency and Knowledge (Co-) Construction Activities in CSCL Environments. In *International Journal of Online Pedagogy and Course Design* 12 (1), DOI: 10.4018/IJOPCD.293209.
- Salinger, A. P.; D'Eramo, T.; Turner, H.; Tela, A.; Meo-Sewabu, L.; Delea, M. G. et al. (2024) : 'When it floods, we work on our own': Exploring factors influencing collective efficacy appraisals for community-level flood measures among urban informal settlements in Suva, Fiji. In *Journal of Community & Applied Social Psychology* 34 (4). DOI: 10.1002/casp.2808.
- San Pedro, T. J. (2015) : Silence as Shields: Agency and Resistances among Native American Students in the Urban Southwest. In *Research in the Teaching of English* 50 (2), pp. 132-153.
- Sang, Guoyuan: Teacher Agency. In : *Encyclopedia of Teacher Education*, pp. 1-5.
- Sarah Tillott; Noelene Weatherby-Fell; P. Pearson; M. Neumann (2021) : Using storytelling to unpack resilience theory in accordance with an internationally recognised resilience framework with primary school children. In *Journal of Psychologists and Counsellors in Schools* 32, pp. 134-145. DOI: 10.1017/jgc.2021.5.
- Savitz, R. S.; Cridland-Hughes, S.; Gazioglu, M. (2021) : Debate as a tool to develop disciplinary practices and student agency. In *Teaching and Teacher Education* 102. DOI: 10.1016/j.tate.2021.103341.
- Somasundaram, D.; Sivayokan, S. (2013) : Rebuilding community resilience in a post-war context: developing insight

- and recommendations - a qualitative study in Northern Sri Lanka. In *INTERNATIONAL JOURNAL OF MENTAL HEALTH SYSTEMS* 7. DOI: 10.1186/1752-4458-7-3.
- Storer, H. L.; McCleary, J. S.; Hamby, S. (2021) : When it's safer to walk away: Urban, low opportunity emerging adults' willingness to use bystander behaviors in response to community and dating violence. In *Children and Youth Services Review* 121. DOI: 10.1016/j.chilyouth.2020.105833.
- Tillott, Sarah; Noelene Weatherby-Fell; P. Pearson; M. Neumann (2021) : Using storytelling to unpack resilience theory in accordance with an internationally recognised resilience framework with primary school children. In *Journal of Psychologists and Counsellors in Schools* 32, pp. 134-145. DOI: 10.1017/jgc.2021.5
- Toom, A Pyhältö, K Pietarinen, J Soini, T (2021) : Professional Agency for Learning as a Key for Developing Teachers' Competencies?
- van Dijk, E. J.; Meijer, M.; van den Berg, F.; Kalkman, R.; Roest, T. (2023) : STUDENT AGENCY - A DIFFERENT PARADIGM FOR LEARNING. In I. Ordonez, P. Sustersic, L. Buck, H. Grierson, E. Bohemia (Eds.). *Proceedings of The International Conference on Engineering and Product Design Education, E&PDE 2023* (123), pp. 655-660.
- Vaughn, M. (2020) : What is student agency and why is it needed now more than ever? In *Theory Into Practice* 59 (2), pp. 109-118. DOI: 10.1080/00405841.2019.1702393.
- Vaughn, M.; Carbonneau, K. J.; Mameli, C.; Grazia, V.; Solheim, O. J.; Kennedy, E. et al. (2024) : A cross-cultural perspective of agency in primary contexts: Validation of the student agency profile across multiple sites. In *International Journal of Educational Research* 124. DOI: 10.1016/j.ijer.2023.102291.
- Vrselja, I.; Batinic, L.; Pandzic, M. (2024) : Relationship between Socioeconomic Status and Pro-Environmental Behavior: The Role of Efficacy Beliefs. In *Social Sciences-BASEL* 13 (5). DOI: 10.3390/socsci13050273.
- Wagner, A. (2009) : Loyalty and competence in public agencies. In *Public Choice* 146, pp. 145-162. DOI: 10.1007/S11127-009-9587-8.
- Wertsch et al. (1993) : A sociocultural approach to agency. In, A. Forman, N. Minick, & A. Stone (Eds) *Contexts for learning sociocultural dynamics in children's development*. (pp. 336-357), New York: Oxford University Press
- Williams, M. A. (2015) : Transformations: Locating Agency and Difference in Student Accounts of Religious Experience. In *College English* 77 (4), pp. 338-363.
- Yang, L. L.; Lee, S. Y.; Oldac, Y. I. (2024) : A Cross-Cultural Exploration of Student Development in Higher Education: Acknowledging, Exercising, and Enhancing Agency. In *ECNU Review of Education*. DOI: 10.1177/20965311241238233.
- Yoon, H. J. (2019) : Toward Agentic HRD: A Translational Model of Albert Bandura's Human Agency Theory. In *Advances in Developing Human Resources* 21 (3), pp. 335-351. DOI: 10.1177/1523422319851437.
- Yu, Y. W.; Tao, Y.; Chen, G. W.; Sun, C. (2024) : Using learning analytics to enhance college students shared epistemic agency in mobile instant messaging: A new way to support deep discussion. In *Journal of Computer Assisted Learning* 40 (3), pp. 1166-1184. DOI: 10.1111/jcal.12941.

# Towards a Sociocultural Approach to Agencies

## Thinking from Disaster Resilience: Challenges in Educational Assessment

Masahiro ARIMOTO

(Professor, Graduate School of Education, Tohoku University)

In order to find a way to approach the agency from a socio-cultural perspective, we conducted a bibliometric review. Specifically, we divided the literature into clusters based on three perspectives: collective efficacy, teacher agency and student agency. As a result of the analysis and examination, it was found that (1) it is based on a number of social science terms, (2) it focuses on various risks such as climate change and disasters, and also on informal and non-formal learning, (3) with regard to teacher agency, it is an attempt to have an impact through enactment, which has a spatial spread influence, (4) agency is essential for linking assessment with co-regulation and socially shared co-regulated learning, and is also compatible with the concept of resilience in Japanese socio-culture, such as '*kankei*' (incl. involvement, commitment, engagement, influence). ', (5) it was found that students are moving towards incorporating generative AI Chatbots into their processes. The challenge is to prepare a framework that can withstand the challenges of alignment (social cognitive theory) by capturing everyday phenomena and events in Japan with a sense of reality, but this is not an impossible prospect.

Keywords : agency, AI chatbot, assessment, self- and co-regulated learning, (disaster) resilience, collective efficacy

